

# 東京都立 共通問題 英語 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

問題の構成は昨年度とほぼ同じで、リスニングテスト 1 題を含む大問 4 題の出題です。2 は図のある短い対話文やスピーチを読んで答える小問集合問題で、最後にテーマ作文が出題されています。作文は、「日本にくる友人に対して何をすべきか考えている Haruka に対して助言したいことを一つ取り上げる」という条件で 3 つの英文を書くもので、基本的な表現で書ける範囲で考えれば解答できたと思われます。3 は会話文、4 は物語の長文読解総合問題。設問の形式は、傍線解釈を選択または空所補充が多いですが、1 語補充する問題が昨年より 1 題増えて 12 点分となりました。また、文整序の問題が今年はありませんでした。

毎年の英問英答も 20 点分出題されており、読解に加えて書きの力もみる問題となっています。

## 入試までに準備しておくこと

問われている知識は中学の範囲から幅広く出題されているため、中1からの復習が必要です。教科書と同じレベルかやや難しいレベルの問題をたくさん解き、慣れておく必要があります。出題傾向は近年大きな変更が見られないため、過去の問題をしっかりと解くことや、同じ形式の問題を解くことが有効です。問題形式のほとんどが会話文や長文形式なので、文を速く正確に読む力が必要です。

空所補充では文の理解度を問う問題がほとんどですが、基本レベルの文法の知識も必要です。偏りなく文法の練習をしておきましょう。単語を書く場合は綴りのミス、時制、単数と複数などに注意する習慣をつけることが大切です。

英問英答問題は疑問詞を確認し何を問われているかを把握すること、時制を確認することで正確に答えられる力を付けていく必要があります。テーマ英作文では、文を難しくしすぎないように基本文法を活用して英文を書く練習をすることが大切です。書きたいことをシンプルにすることが、英文をシンプルにすることにつながります。リスニング問題は、継続的な英語を聞き取る練習が必要です。過去の問題や英検 3 級程度の聞き取り問題で練習することが効果的です。また、おおまかな理解度でたくさんの英文を聞き取り、一つの英文を一つ一つの単語が理解できるようになるまで聞き取り、少しずつその文を増やしていくほうが、力がつきます。

英語 分野別出題形式		22年度	21年度	20年度	
リスニング	記号	内容理解(含英問英答)	12	12	12
	記述	英問英答	8	8	8
		和問和答			
小計		20	20	20	
語彙	記号	綴り			
		語形変化			
		発音・アクセント			
小計		0	0	0	
文法	記述	適語(句)選択			
		適語(句)補充			
		語順整序			
	記号	部分英作			
		完全英作			
小計		0	0	0	
読解	記号	内容理解(含英問英答)			
		内容一致	12	8	8
		段落・文整序		4	4
		適語(句)・文・節選択	36	40	44
		語順整序			
	記述	内容理解(指示語など)			
		語形変化			
		空所補充	12	8	4
		和文英訳			
		部分英作			
小計		80	80	80	
合計点		100	100	100	

# 東京都立 共通問題 国語 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

大問5題、小問25題の構成は例年通りでした。**1**の漢字の読みは小学校～中学校前半、**2**の漢字の書きは小学校の基本的な語句からの出題です。

**3**の文学的文章では、例年通り、登場人物の心情や様子を読み取る設問や、小説特有の表現が何を述べているかを問う設問が出題されました。また、今年も「このときの麻子の気持ちを父に伝えるとしたら、どのように言うか。」という記述問題が出ました。

**4**の説明的文章でも、例年通り、傍線部の説明や理由を問う問題、段落構成を問う問題が出題されています。問5には、文章の内容を踏まえて自分の意見を書く200字の作文が出題されています。

**5**は古典を含んだ現代文です。過去6年、2003年度は和歌、04年度は漢詩、05年度は古文、06年度は漢文、07年度は漢詩、08年度は古文、09年度は漢文の書き下し文、今年度は俳句と古文を含んだ現代文からの出題でした。また、昨年に続き文中の語「すかさず」を使った例文を作らせる問題が出題されました。

国語 出題分野一覧表		22年度		21年度		20年度	
		記号	記述	記号	記述	記号	記述
漢字 語彙	漢字の読み取り		10		10		10
	漢字の書き取り		10		10		10
	四字熟語・語彙						
文法・表現							
敬語							
韻文	俳句(鑑賞文含む)						
	短歌(鑑賞文含む)						
	詩(鑑賞文含む)						
資料を含む文章							
小説	心情を問う設問	15	5	15	5	10	5
	場面を問う設問	5		5		10	
	語句						
	本文との正誤問題						
論説	語句・接続語						
	傍線部の理由を問う設問	5		10		10	
	傍線部の説明を問う設問	10		5		5	
	段落・内容	5		5		5	
古文・ 漢文を 題材と した説 明文	古典・語句知識	5		5		5	
	短文作成		5		5		5
	傍線部の理由を問う設問						
	傍線部の説明を問う設問	10		10		5	
	対応箇所指摘		5		5		10
	本文との正誤問題						
作文			10		10		10
合計			100		100		100

## 入試までに準備しておくこと

漢字については小学校の漢字は読み書き全て復習をすることが求められます。また、語彙力については、様々な慣用語、慣用表現をはじめとする語句の意味を理解し、実際に使う力も必要です。

小説的文章については、教科書レベルのものから構わないので、登場人物の心情を押さえながら読む練習が必要です。また、表現や情景描写から心情を理解したり、心情を説明したりすることも大切です。

説明的文章については、普段から段落ごとの要旨をつかみながら読み進めましょう。また、記述問題は文章の要旨に合わせて書くことが求められるため、筆者の主張を明確にとらえるように事前に練習するべきでしょう。

古文を含む現代文では、古文・漢文・漢詩・和歌に関わらず、古典の内容は現代文に書かれている場合が多いですが、基礎的な読解法は身に付けておいたほうがよいでしょう。また、現代文の部分は、年度により評論文、会話文、と種別もさまざまなので、必ず過去5～6年分の過去問を複数回解いて、形式に慣れておく必要があります。

記述問題は3問、20点と配点が大いなので、しっかりと練習の積み重ねが必要です。小説的文章では文章の内容から心情を説明する練習を、説明的文章では文章の要旨を踏まえて自分の意見をまとめる練習をしましょう。

# 東京都立 共通問題 数学 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

出題構成は大問5題、うち1題が独立小問集合形式で、総小問数は19題でした。①は例年通り正負の数、文字式、根号を含む数の計算が3題、1次方程式、連立方程式、2次方程式が3題、場合の数、弧と円周角の大きさ、垂直二等分線の作図の計9題でした。②は正方形を移動させてできる立体の問題。垂直に移動した角柱と1辺を軸として回転させた円柱でそれぞれ体積を表現するものでした。③は座標と直線の問題で、問1は直線の式、問2は交点を求める問題でした。問3は、図形の面積から座標を決定する問題でしたが、三角形の面積を求める問題に慣れてきた生徒は楽に解くことができたでしょう。④は平面図形からの出題で、文字を使った角度の表現、基本的な相似の証明、相似を組み合わせた線分比の問題でした。⑤は空間図形で、動く点が作る図形の問題でした。問1は、3辺が等しいことから正三角形ができることを利用した問題。問2は、内部にできる三角すいの体積の問題で、できる立体の平面が垂直になることを利用したものでした。手はかかりますが立方体を切り崩していくことでも対応できました。

## 入試までに準備しておくこと

傾向は安定しています。過去問や類似問題で準備をすると良いでしょう。計算は正確さとスピードの両面を強化するために、正負の数の四則計算、文字式の乗除と加減、方程式を一通り、展開、因数分解を十分にトレーニングしてパターンを身に付けておきましょう。関数は、頻出の変域、変化の割合に加え、グラフ問題に向け、放物線の式、点の座標や条件から直線の式を求めることはすぐにできるようにしましょう。そしてグラフの交点の座標や座標平面上の図形の面積を求められるように準備しましょう。方程式の応用、数と式は入試の傾向が色濃く出る領域なので、過去問、類似問題を中心に演習し、さまざまな問題に慣れておきましょう。図形は難易度が高い出題ではありませんでしたが、相似・三平方の定理・円周角の定理をきちんと使いこなせるようにし、基本から若干レベルを上げた問題までを数多く練習しておきましょう。

領域	内容	配点		
		22年度	21年度	20年度
数と式	数の性質・表現		7	12
	数の計算	5	5	5
	式の計算	5	5	5
	平方根	5	5	5
	多項式の乗法			
	因数分解			
小計		15	22	27
方程式	1次方程式	5	5	5
	連立方程式	5	5	5
	2次方程式	5	5	5
	方程式の応用			
	不等式・不等式の応用			
小計		15	15	15
関数	比例と反比例			
	1次関数			
	2次関数			
	変化の割合・変域		5	5
関数と図形	直線と曲線	10	5	5
	関数と図形	5	5	5
小計		15	15	15
三角形・四角形	角度	5	5	10
	作図	6	6	6
	合同		7	7
	相似	7		
	三角形			
	平行四辺形			
円と平面図形	円周角の定理	5	5	
	円と弧・弦・接線			
	線分、線分比	5		5
	面積、面積比		5	
	点の移動と図形			
空間図形	線分、線分比		5	
	面積、面積比			
	体積、体積比	10	5	
	点の移動と図形	5		10
	回転体、球			
	小計	43	38	38
確率	場合の数	5	5	
	確率		5	5
総合問題	数と式	7		
	図形			
	その他			
小計		12	10	5
合計		100	100	100

# 東京都立 共通問題 理科 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

大問 6 題の出題で、1 題が独立小問集合、1 題が総合問題、他に地学、生物、化学、物理から 1 題ずつの出題でした。①は独立小問集合形式で、1 分野、2 分野それぞれ 3 題ずつの出題でした。内容は地学、生物、化学、物理からで、現象や特徴についての知識を問う選択式の問題でした。②は現象について説明した文の空欄に適語を補う形式の知識問題で、物理、化学、地学、生物から 1 題ずつ計 4 題でした。③は地学分野で、高気圧と低気圧、寒冷前線と天気の変化からの出題でした。④は生物分野。メダカを用いた実験で、刺激と反応。最後にメダカの反応から考察をして記述する問題が出されました。問題文が長く読解が大変でした。⑤は化学分野からで、酸化と質量の変化についての問題。グラフを記入する出題がありました。⑥は物理分野で、質量の異なる物体を、斜面の高さを変えて転がし木片に衝突させる実験と結果から、エネルギーや速さを問う問題。物体の運動の速さを利用した電磁誘導の問題も出されました。

## 入試までに準備しておくこと

すべて基本的な教科書レベルの内容やその周辺から偏りなく出題されます。1 つの学年に絞ったような勉強は避け、すべての分野を満遍なく学習すべきでしょう。特に実験や観察は重要で、実験の結果はもちろん、実験上の諸注意やその理由なども含めて 1 つ 1 つの実験や観察から吸収できるすべての知識をしっかりと自分のものにしていく必要があります。特に実験結果についての考察は十分に練習をしましょう。選択式の問題では、知識を 2 つ組み合わせる正答を選ぶ問題や、不十分な知識では惑わされてしまう問題もあり、日ごろから知識を確実なものにし、あいまいな部分をなくしていくように学習しましょう。入試準備の学習の中に必ず選択式の問題のトレーニングを取り入れるようにしましょう。説明を記述させる問題やグラフを記入する問題が出題されています。語句のみの学習ではなく、実験とその結果や確かめ方、自然現象についての説明などを記述式の問題でトレーニングを積んでおく必要があります。

分野	22年度		21年度		20年度	
	出題内容	配点	出題内容	配点	出題内容	配点
物理	音	4	力学的エネルギー	4	凸レンズと像	4
	光の進み方	4	光	4	電流と磁界	4
	回路と電圧、電流	4	電流計	5	音	4
	力の表し方	5	回路と電圧、電流	5	力の表し方	5
	力学的エネルギー	5	回路と電力	5	力のはたらきと速さ	5
	電磁誘導	5			力学的エネルギー	5
小計		27		23		27
化学	実験器具と操作	4	状態変化	4	溶解度	4
	化学電池とイオン	4	状態変化(蒸留)	4	酸化鉄の還元	4
	銅の酸化	5	有機物の燃焼	4	気体の性質	5
	質量保存の法則	5	実験器具と操作	5	密度	5
	グラフ作成	5	化学変化と気体	5	燃料電池	5
酸化銅の還元	5					
小計		23		27		23
生物	植物の分類	4	植物の分類	4	動物の分類・特徴	4
	生殖・食物連鎖	4	生物の生殖	4	刺激と反応	4
	感覚神経	5	植物のつくり	4	植物の観察	5
	刺激と反応	5	動物の特徴	5	植物のはたらき	5
	感覚器官	5	分解者のはたらき	5	酵素のはたらき	5
分解者のはたらき	5					
小計		23		27		23
地学	地層と化石	4	堆積岩	4	地震計の記録	4
	地震の伝わり	4	大気中の水蒸気	4	雲のでき方	4
	太陽系の天体	4	太陽の運動と観測	5	太陽系の天体	4
	高気圧と低気圧	5	太陽の動きと季節	5	地層と化石	5
	前線と空気の動き	5	季節と星座	5	堆積岩、火成岩	5
	前線と天気の変化	5			堆積岩とでき方	5
小計		27		23		27
合計		100		100		100

# 東京都立 共通問題 社会 出題傾向と対策

## 出題傾向の分析

出題構成は例年通り大問 6 題，総小問数は 20 題でした。

基礎的知識と資料活用・分析の能力を問われる問題がほとんどを占めています。③～⑤で各 1 題ずつ，提示されている資料を分析し，そこからの考察を述べる文章記述問題が出題されました。毎年 2～3 題程度出題されており，出題数は例年通りといえます。

①は地理・歴史・公民各分野から小問形式の問題です。設問や資料をしっかりと読めば解答は容易です。②は世界の国々の位置，気候，貿易に関する地理的分野の問題です。都市の位置と雨温図，輸出入額の資料読み取りなど出題内容はほぼ昨年と同じでしたが，アメリカの地誌や資料を詳細に読み取る力が必要であることから難度は高かったといえるでしょう。③は地図と資料から地方ごとの産業の特色などを問う日本地理分野からの問題です。文章記述では，製造業における急速な世代交代による競争力低下についての設問であり，現代の社会情勢への関心が問われています。④は政治，経済をテーマとした歴史的分野からの出題です。基礎知識を問われるとともに，東京都内の地理についての知識が必要な出題が見られました。⑤は公民分野から，基礎的知識，資料分析からの考察を問う問題，⑥は「国際社会」をテーマに，外交の歴史，貿易，環境問題と，地理・歴史・公民各分野を関連させた総合的な出題となっています。

## 入試までに準備しておくこと

基礎的な事項に関する設問は落とせません。ここで点数を落とすと高得点は望めません。学校教科書に記載されていることは，もろさず覚えなければなりません。資料分析と考察力が問われる出題も多いため，重要語句の暗記だけに留まらず，資料集・地図帳などを利用して図・表・グラフ・年表・地図などを確認し，語句の簡単な説明や派生する知識についてもあわせて確認していきましょう。さら

に，問題演習量を十分に積んで慣れておく必要があります。また，設問文は他県と比較して長いため，設問を正確に素早く読み解き，何を問われているのか，どの資料を参考にするのかをしっかりと理解する力も必要となります。

		単元	22年度	21年度	20年度
世界地理	世界のすがた	緯線・経線			○
		時差	○		
	気候	地形	○	○	○
		気候のようす		○	
		雨温図	○	○	○
	生活文化	生活・文化			
		人口・宗教			
産業・貿易		○	○	○	
	エネルギー				
	各国のようす	○	○	○	
	資料分析			○	
日本地理	農林水産業	農業		○	○
		林業			
		水産業			
		工業	○		○
		その他の産業		○	
	気候	気候のようす			○
		自然・災害	○		
		各地の特色	○	○	○
		地形図		○	
	その他	交通・通信		○	
貿易				○	
	都市問題				
	資料分析	○	○	○	
歴史	旧石器～平安	政治			○
		社会経済			○
		文化		○	○
	鎌倉～安土桃山	政治	○	○	
		社会経済	○	○	
		文化		○	○
	江戸	政治	○	○	
		社会経済	○		○
		文化			○
	明治～第2次大戦	政治	○	○	○
		社会経済	○	○	
文化					
	現代	○	○		
	世界史	○		○	
	資料分析	○	○	○	
公民	現代社会				
	政治	人権	○	○	○
		憲法			
		選挙			
		国会			
		内閣			
		裁判所	○	○	○
		三権分立			
	経済	地方自治			
		消費・流通			
		価格・物価	○		
		生産・企業			
		金融			
		職業			○
		社会保障			
	財政		○		
		国際社会	○	○	
	資料分析	○	○	○	
配点	地理	40	40	40	
	歴史	30	30	30	
	公民	30	30	30	